

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立湊小学校
-----	----------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 学習面では、保護者にも児童進行の授業づくりについて浸透し理解されてきた。全ての学年、教科で実践され定着されてきたことで、授業や課題に取り組む姿勢が身につけてきた。 地域の方々に指導、協力していただいて、児童は充実した活動ができたという思いをもつことができた。
------------------	--

2 学校教育目標	豊かな心をもち生き生きと自分の「よさ」を発揮できる湊っ子の育成
----------	---------------------------------

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ①「自分ごとの学び」を手に入れる学習指導の在り方を追究し、学力向上を図る。 ②安心して通える学校をつくり、充実した生活を送ることができるようにする。 ③地域の人材や地域の各種団体と連携した活動を仕組み、地域と共に歩む学校をつくる。
------------	---

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践 ○児童が主体的に学ぶことができる授業の実践	○学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上 ○国語算数の単元テストの正答率8割以上の児童が80%以上	・全教科・全領域でアクションプランを取り入れる。 ・単元テストで正答率の低い児童にはプリント学習や宿題を与えることで確実な習得を目指す。 ・授業の在り方について工夫を行い、児童が自ら学ぶ力を高める。 ・児童が学ぶ目的や学びへの意識向上のための工夫を行い、学ぶ力を育む。			
●心の教育	●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 ●いじめの早期発見、早期対応体制の充実 ◎児童が夢や目標をもち、その実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	○道徳科の「生命尊重」に関する授業を年間1回以上行う。 ○身の回りの人に「ありがとう」の気持ちを伝える回数を増やす。 ○生活アンケートで「いじめをゆるさない」気持ちを持つ子ども80パーセント以上を目指す。 ○キャリアパスポートの記述を進め、将来の夢や希望に関するアンケートに肯定的な回答をした児童(小学5・6年)の割合が80%以上。	・教育の日に道徳授業の公開を行う。 ・体験活動を通して、友だちとの関わりや地域の人とのふれあいの機会をふやす。 ・いじめ防止に取り組み、いじめ発見や対応について職員連絡会や職員会議等で気になる児童の情報交換を行う。 ・各種活動では、児童に活動の見通しと学びの振り返り、及び、自らの達成感を感じさせる活動を仕組む。							
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成 ●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○望ましい生活習慣の形成に向け、県の食育月間6月と11月にあわせて、1週間の生活アンケートに取り組む。達成率80%を目指す。 ○「健康に食事は大切である」と考える児童100%を目指す。	・生活アンケート(早寝・早起き・朝ごはん)を実施し、1週間の生活の記録を行う。できていない児童は、振り返りを行う。職員会議等で気になる児童についての情報交換を行う。 ・食育の授業を通し、食事の大切さについて考える。 ・土曜授業の日に、家庭でおにぎり弁当(3回)を作ることで、食に対して興味をもたせるとともに、食の管理能力の育成を図る。							
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減 ○働き方に関する教職員の意識改革と実践	●教育委員会規則に掲げる時間外在職を遵守する。 ○「効率的な業務に取り組んでいる」と自評する割合を80%以上にする。 ○自己目標の中に働き方改革に関する取り組みを入れ、目標を達成した職員を80%にする。また、働き方改革についての研修会を長期休業中に行う。	・2週間分の週計画を示し、見直しを立てやすくする。 ・職員会議の際、前月の勤務時間一覧を示し、働き方の実態を職員全体で共有化する。 ・働き方に関するアンケートを実施し、セルフマネジメントのきっかけとする。 ・金曜日を定時退勤日とする。							

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				○地域とともにある学校づくり	○地域人材の活用や地域との交流	○地域人材を各学年で年間1回以上活用する。 ○児童が年間1回以上、主体的に地域の行事に参加する。	・公民館、地域団体などとの連携を図り、活動を展開する。 ・「人材リスト」を作成し、地域人材と日常的につながりをもつとともに、地域行事の日時と内容を紹介し、児童の参加を促す。			
○特別支援教育の充実	○一人一人の個性や特性を生かした指導及び支援の充実	○ケース会議などを充実させ、支援が必要な児童に対して、個に応じた対応ができると答えられる教員を70%以上にする。	○必要に応じてケース会議を開き、支援が必要な児童の情報を共有する。困り感を持つ子どもや保護者に寄り添い、情報感度を高めて校内支援会議を開く。							

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	
--------------------	--